

コウノトリ放鳥10周年  
片岡愛之助さんの「神の鳥」語り 参加者募集!

片岡愛之助さんが、再び豊岡に！歌舞伎「神の鳥」やコウノトリも住める豊岡の魅力などを中貝市長と語り合います。

▼日時 1月30日(土)午後6時30分

▼場所 出石永楽館

▼対象 市内在住、在勤、または在学の方

▼定員 300人

▼申込み 往復はがきに左記の必要事項を記入の上、申し込んでください。申込者多数の場合は抽選とします。

※申込みは1人1通とし、はがき1枚につき1人申し込

《往復はがきの記入要領》

<p><b>往信おもて</b></p> <p>切手 〒668-8666</p> <p>往信 豊岡市中央町2番4号 豊岡市役所 コウノトリ共生課 行</p> <p>〇〇〇-〇〇〇〇</p>	<p><b>返信うら</b></p> <p>※ここは白紙のまま までお送りください。</p>
---	--

<p><b>返信おもて</b></p> <p>切手 〇〇〇-〇〇〇〇</p> <p>返信</p> <p>参加申込者の 郵便番号 〒●●●●●● 住所 豊岡市●●●●●● 氏名 ●●●●●●様</p> <p>〇〇〇-〇〇〇〇</p>	<p><b>往信うら</b></p> <p>①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤市外在住で市内に 通勤・通学の方は、 事業所名・学校名</p> <p>※1通につき1人 申込みできます。</p>
---	---



第8回永楽館歌舞伎の製作懇親会 (平成27年8月31日・大阪市内ホテル)

▼期限 1月8日(金)午後5時必着

《申込み・問合せ》コウノトリ共生課 ☎21-9017

豊岡のここに住むじや！⑨

インバウンドで元気なまちづくりって？

玄武岩の玄さんが堅いテーマも柔らかく解説

玄さん、インバウンドって初めて聞いたよ！

インバウンドとは、外国人が日本を旅行することじゃ。全国でがっせえ増えつつ、今年は1月から9月の間に、なんと1400万人が来とるんじや。

へえ、そんなにたくさん！豊岡にも外国人観光客が来ているの？

下のグラフを見てみよう。外国人観光客の数はどんと増えとる。今年は1月〜9月だけでも2万人以上じや。台湾、香港、中国、タイ、オーストラリア、フランス、英国、米国など、いろんな国の人に豊岡はモテモテなんじや。

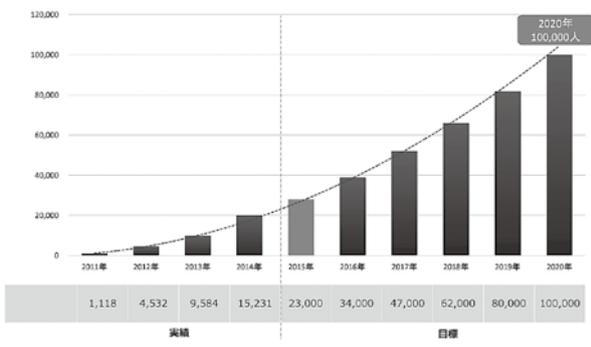


城崎温泉街を浴衣姿で歩く外国人観光客

どんなことをして過ごすの？

城崎では浴衣を着て柳並木のみち歩きや温泉を楽しんだり、日本らしい旅館に泊まったりするんじや。玄武洞までサイクリングするアクティブな人もおるぞ。竹野の海をポーッと眺めとる人やバスで出石を観光する人もおる。最近では冬の神鍋高原

《豊岡市訪問外国人人数》



スキー場で外国語を耳にする機会も増えたのお。都会にはない自然や体験を楽しんだらようじや。

何で、豊岡はインバウンドに取り組むの？

豊岡の人口が減ってきているのは知ってるか？豊岡のまちを元気にするため、海外から観光客を呼び込もうとするとるんじや。外国の新聞社や旅行社に豊岡を紹介したり、外国語のパンフレットやホームページを作っておるぞ。最近では旅行中の情報集めに役立つ無料WiFiのサービスの始めたんじや。

もっともっとと世界の人に豊岡の良さを知ってもらいたいな。

そうじやな。もしまち中で外国人観光客を見かけたら日本語でもええからあいさつするんじやよ。



# 仲田光成記念 第15回豊岡全国かな書展を開催しました

11月13日から15日に開催しました「第15回豊岡全国かな書展」では、全国28都府県から応募のあった5630点の内、文部科学大臣賞をはじめとする3924点を総合体育館に展示しました。

14日には、上位入賞者や豊岡総合高校書道部の皆さんによる書の実演を披露しました。また、15回記念の特別企画「ふるさと」をテーマにした絵手紙作品も展示し、多くの皆さんにお越しいただきました。

《問合せ》竹野振興局地域振興課 ☎47-11111

【入賞者(特選を除く)】(敬称略)

- 文部科学大臣賞
- ▽川崎艸堇(大阪府羽曳野市)
- 仲田光成記念賞
- ▽谷岡妙子(茨城県取手市)
- 【市内関係分】
- 兵庫県知事賞
- ▽古村倅奈(日高小6年)
- 兵庫県教育委員会賞
- ▽西垣百菜(北中2年)
- ▽三上こころ(総合高2年)



文部科学大臣賞 川崎艸堇 作  
いざ歌へ我立ち舞はむぬば玉のこよひの月にいねらるべしや(良寛)他一種

- 神戸新聞社賞
- ▽森田由香(戸牧)
- 但馬文化協会賞
- ▽山本佳世(泉町)
- 豊岡市長賞
- ▽上がきわか(豊小1年)
- ▽西垣悠香(五荘小3年)
- ▽富田智紗子(近中3年)

- ▽谷岡凌風(正法寺)
- 豊岡市議会議長賞
- ▽高田結生(日高小5年)
- ▽坪内 琳(日高東中1年)
- ▽澤田美咲(出石高3年)
- 豊岡市教育委員会賞
- ▽なかつしゅう(五荘奈佐幼)
- ▽岡本真奈(竹野小2年)
- ▽木村歩(五荘小4年)
- ▽桶本こころ(竹野小6年)
- ▽川西莉央(北中3年)
- ▽加藤富美子(出石町水上)



▲席上揮毫(豊岡総合高校書道部) ▲会場の様子

## 「植村直己の精神を伝える」 「2015日本冒険フォーラム」を開催

11月22日、植村直己の素顔を振り返り、冒険文化を考える第2回目の日本冒険フォーラムを、明治大学で開催し、約900人が参加しました。

基調講演で、植村にとって良き相談相手だった湯川豊さんは「植村さんがまっ白けの南極大陸の地図を広げて、こつちからこつちまで3kmを犬ズリで単独踏破したいと言われ、へーと思って聞いておりました」と語るなど、植村の南極にかける夢に心を動かされたり、植村の心遣いに感銘したエピソードなどを披露しました。

続くパネルディスカッションでは、植村が挑み、憧れ続けた『極地』をテーマに、4人のパネリストが北極・南極の自然や冒険行について語り合いました。極地での装備品や映像は客席の興味を引き、特に迫りくるホッキョクグマの映像は、その迫力と臨場感に驚きと歓声が上がりました。



極地の様子を紹介

会場の一角に設けた交流ひろばでは、極地で活動する冒険家の皆さんの展示や、チャレンジャーが行動の途中で撮影した写真とメッセージをパネルで紹介。多くの来場者でにぎわう情報交換と交流の場となりました。

このフォーラムを通して、植村精神や本市の魅力が東京発で全国に発信することができました。今後も、植村精神を継承し、チャレンジスピリットを広めていきます。